

一般質問

12月定例会では、15人の議員が一般質問を行いました。(順不同)

Q&A



一般質問とは、本会議で議員が市政全般にわたって市長等(執行機関)に対して疑問点を質問したり、政治姿勢を明らかにしたりするものです。



鳥獣被害(ドローンの活用を) 「いせはら為成会」 館 大樹

Q 有害鳥獣の発見、追跡、追い払い、捕獲支援にドローンを導入することの有効性に対する評価について伺う。

発見や分布・行動パターンの把握、分析により、捕獲活動等に役立てることができると考える。国では、鳥獣被害防止総合対策事業が展開されており、県では、実証実験支援事業に取り組み、民間企業による鳥獣被害対策ドローンの販売が10月から開始された。このようにドローンの活用は、従来の対策の課題を解決する有効な手段として、注目されていると認識している。

【農地利用担当部長】

A ドローンは、野生鳥獣による農地への侵入や被害発生を広範囲に監視することができ、危険な場所や見通しが利かない夜間の調査などが安全で効率的に行えることが期待される。具体的には、レーザー光線の照射や威嚇音の発生などによる鳥獣に対する威嚇や追い払い、また、赤外線での鳥獣の

【その他の質問】

◎風水害による土砂・倒木撤去助成金の創設



森林環境譲与税の使途と今後の方向性について 「志政会」 小沼 富夫

Q 森林環境譲与税の令和6年度以降の中期的な使途計画や重点施策を伺う。

備本体の充実と次代を担う子どもたちの教育環境から木材利用の促進を図っていく。また、建築物等における木材の利用の促進に関する方針を策定しているため、今後は公共施設等の木質化に資する活用についても積極的に促進していきたい。

【農地利用担当部長】

これまでも大きな割合を配分している森林整備や、林道等の維持管理が大きな柱である。もう一点は、小中学校の机や椅子の購入費を中心に充当することにより、森林整



重層的支援体制整備事業の今後の方向性について 「進風会」 山田 昌紀

Q 本市の重層的支援体制整備事業について、今後の方向性を伺う。

重層的支援体制整備事業の今後の方向性について

【保健福祉部長】

A サービス事業者やNPOなどの地域における支援団体や民生委員へ、本事業の意味、メリットなどをしっかりと説明し、理解を得て事業に参加いただく取り組みを行っていきたくとも重要と認識している。

【その他の質問】

◎都市計画道路田中笠窪線整備事業について



市民も職員も共に楽になるオンライン市役所について 「いせはら未来会議」 森尾 武史

Q マイナンバーカードを市民に便利だと感じてもらえる将来の活用拡大の在り方について伺う。

マイナンバーカードは、自治体DXを進める上で欠かせない基盤であるとして認識している。先進自治体においても、タクシー利用助成の申請、交通系ICカードとの連携、避難所における入退所受付の効率化など、マイナン

【行政経営担当部長】

バーカードを活用したさまざまな取り組みが進められており、住民サービスの拡充と事務の効率化の両面で効果が生まれている。本市としても、先進自治体の取り組みなども参考にしつつ、新たなデジタルサービスを積極的に検討し、市民の方々がマイナンバーカードを持っていくよかったですと実感できるように利便性の高いサービスを順次展開していく。



中学校部活動の今後の方向性について 「志政会」 伊藤 巖

Q 中学校部活動の今後の方向性について見解を伺う。

スポーツライトを当てる仕組みがあってもよいのではないかと考えており、地域文化芸術活動に子どもたちが参加することは、地域活性化にもつながると考える。こうした考えから、部活動の意義や成果、教職員や生徒、保護者の意見も踏まえ、学校や地域、関係機関等と連携を重ねながら、持続可能な伊勢原らしい部活動の在り方について検討を進めていく。

【教育長】

A 教育委員会では、少子化が進む中、将来にわたり生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しめる環境を充実させることを目指していく。本市の学校部活動の仕組みを基盤としながら、全ての生徒が多様な活動に参加できる環境整備や地域が支える仕組みを構築していく必要がある。また、地域のスポーツ、文化芸術に参加する子どもたちにもっと



街なかで休憩できる場所やベンチの設置を 「日本共産党」 川添 康大

Q 民間、商店街との協働による街なか休憩スポットづくりについて、モデル地区の選定や協力店舗募集など具体的な仕組み化に向けた検討を始める考えがあるのか伺う。

契機として、商店街や商業施設にも広がり、中心市街地の活性化に寄与する持続的なまちづくりにつなげるため、地域と連携した取り組みを進めていく。こうしたまちづくりの主体には、地域の事業者や商店会などの協働が不可欠であり、アイデアを出し合い、実践することで、効果が生み出されるものと考えている。まずはこの事業で実践し、具体的な仕組み作りにつなげていくよう推進していきたいと考えている。

【都市部長】

A 伊勢原駅北口市街地再開発事業では、広場を3箇所設ける計画を進めている。この広場空間は、地域のエリアマネジメントにより、その活用や休憩、憩いの空間として、また、来街者の回遊性の向上を目的としている。この整備を



保育士確保策について 「いせはら為成会」 八島 満雄

Q 保育士不足における本市独自の確保策について伺う。

策、今後取るべき施策内容を検討するため、市内の各保育所等と意見交換を重ねている。その中には、独自手段が充実している市への人材流出を懸念する声もあり、その対策も喫緊の課題であると認識している。このような意見を真摯に受け止め、保育士が安心して長く働き続けられる職場環境の整備に加え、新規採用につながる実効性のある施策を検討していきたいと考えている。

【子どもみらい部長】

A 宿舎借上げに対する補助、保育補助者の雇い上げ費用に対する補助、配置基準を超えて保育士を雇用する補助を実施したほか、本市独自の就職説明会を継続的に開催し、一定の成果は得ていると認識している。しかし、これまでの施策だけでは抜本的な改善を図ることは困難であり、一層の厳しさが増している。こうした状況を踏まえ、根本的な課題の整理とその打開



職員のA-1活用と人事評価 「いせはら未来会議」 安藤 玄一

Q 来年度の人事評価制度の見直しについてはA-1活用による時間短縮、生産性向上などの具体的な基準を設けて、ボーナスや昇格に直結させるべきと考えるが、見解を伺う。

易度を標準よりも高く設定することが可能となる。生産性のパラドックスは、DXを推進する上での課題と認識しており、面談時に業務改善等の目標を設定することで、「業務プロセス」の省略、時間短縮、生産性の向上」がプラスの評価となるよう、評価制度の運用に取り組んでいく。

【総務部長】

A 実績評価は前期・後期の目標設定時に被評価者と面談を行い、業務の目標および難易度の設定を行っており、業務目標を「A-1等を活用した新たな手法を用いて、業務プロセスの省略を行う」とすることで難

【その他の質問】

◎高齢者福祉におけるデジタル技術の活用について

